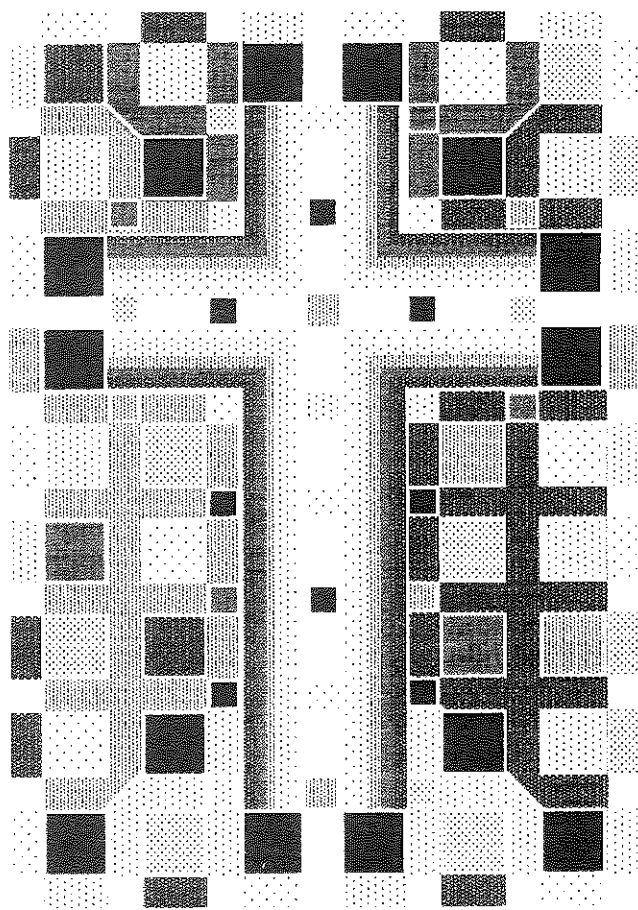


# THE WITNESS OF JESUS 2



～ルカの福音書からの手引き～

- Who is Jesus?
- キリスト者の生き方

# もくじ

## 第Ⅲ部

### Who is Jesus ?

- Lesson 1** イエスに対する二つの反応…ルカ 4 章 14 節～30 節……2
- Lesson 2** 罪を赦す権威者イエス…ルカ 5 章 17 節～26 節……4
- Lesson 3** 友であり医者であるイエス…ルカ 5 章 27 節～32 節……6
- Lesson 4** イエスが語った「幸いな者」とは…ルカ 6 章 20 節～26 節……8
- Lesson 5** 弟子たちの驚き…ルカ 8 章 22 節～25 節……10
- Lesson 6** 悪霊にとりつかれた人を解放したイエス…ルカ 8 章 26 節～39 節……12
- Lesson 7** 制度よりも人を大切にしたいイエス…ルカ 14 章 1 節～6 節……14
- Lesson 8** 祈ってくださるイエス…ルカ 22 章 31 節～34 節……16

## 第Ⅳ部

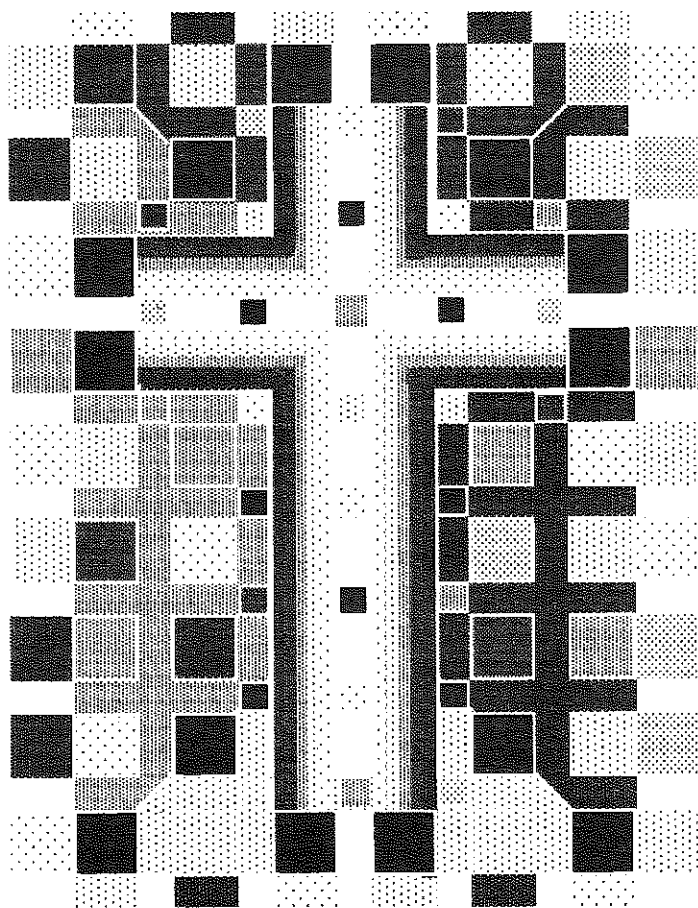
### キリスト者の生き方

- Lesson 1** 安息日の過ごし方…ルカ 6 章 1 節～11 節……20
- Lesson 2** イエスを受け入れた人の歩み…ルカ 9 章 46 節～50 節……22
- Lesson 3** 隣人になること…ルカ 10 章 25 節～37 節……24
- Lesson 4** 何を大切に生きるか…ルカ 10 章 38 節～42 節……26
- Lesson 5** 金持ちの勘違い…ルカ 12 章 13 節～21 節……28
- Lesson 6** おこった兄息子…ルカ 15 章 25 節～32 節……30
- Lesson 7** どんな祈りをささげるか…ルカ 18 章 9 節～14 節……32
- Lesson 8** 与えられたものをどのように生かすか…ルカ 19 章 11 節～27 節……34

# THE WITNESS OF JESUS 2

ルカの福音書からの手引き

## Who is Jesus ?



## Lesson1

### Lesson

# I

## イエスに対する 二つの反応

ルカの福音書 4 章 14 節～30 節

### Question

最近、話題になっている事件を何か一つ取り上げて、自分がそれについてどのような反応をしているか、話しあいましょう。

洗礼を受け、悪魔の誘惑に打ち勝って評判になったイエスに対し、イエスの生まれ故郷であるナザレの人々は、様々な反応を示しました。この箇所から、人々がイエスに対して示した二つの反応について見ていきましょう。

- (1) イエスは旧約聖書のイザヤ書を朗読した後に、「聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました」(21 節) と言いました。
- この言葉から、イエスは自分がどのようなものだと主張していることがわかりますか。
  - このことから、イエスと旧約聖書の関係について、どのようなことがわかりますか。

(2) 22 節を見ると、イエスが語ったことへの人々の反応が示されています。

それぞれどのような反応でしたか。

(3) 23 節～27 節は 22 節後半の人々の反応へのイエスの言葉です。イエスはここ

でナザレの村の人々に対して、どのようなことを指摘しているのでしょうか。

(4) 会堂にいた人々はどのようにしてひどく怒った (28 節) のだと思いますか。(3) で

見たイエスの主張を手がかりにして考えてみましょう。

## まとめ

---

1. ここまで、イエスの言葉に対して人々が驚いたこと、怒ったことの二つの反応を見ました、人々が怒った原因については、(4) で考えましたが、私たちが似たような理由で怒ることはありますか。具体的に例をあげてみましょう。

2. 22 節の前半の反応を、もう一度見ましょう。

a. 人々が「その口から出てくる恵みのことばに驚いた」と書かれています。イエスはどのような人格の持ち主だったと思いますか。

b. イエスの口から出る「恵みのことば」とは聖書のことばを意味します。これまで聖書のことばに驚いた、という経験がありますか。具体的にあげてみましょう。

イエスの言葉に対して二つの反応があったことをこの課では見ました。私たちは今、イエス・キリストに対してどう反応しているのでしょうか。いずれにしても、イエスという人物は、当時のユダヤ人社会において影響力のあった人であったと同時に、今日でも全世界の人々に大きな影響を与えています。このシリーズでは、続けて「イエスとはどのような人であるのか」に注目しつつ、彼の言葉と行動を見ていきましょう。

**Lesson**

**2**

**罪を赦す**

**権威者イエス**

ルカの福音書 5章 17節～26節

イエスの教えについては、当時のイスラエルの宗教的指導者も強い関心を示していました。彼らがイエスの言葉と行動に注目している中で、イエスはある時一つの奇跡を行いました。

- (1) 男たちは中風を患っている男の人をイエスに合わせるために、どのような工夫をしましたか。その態度から、彼らがイエスをどのように見ていたかがわかりますか。
- (2) 「彼らの信仰を見て」(20節)という言葉に注目しましょう。信仰は個人的なものと考えられがちですが、ここでは「彼らの信仰」と記されています。そのことから、イエスに対する信仰について、どのような別の側面に気づきますか。
- (3) 中風の人にとっては、病気が治ることこそ切実な願いでした。それなのに、どうしてイエスは、病気をいやす前に「友よ。あなたの罪は赦されました。」と言ったのでしょうか。

(4) パリサイ人たちはイエスの言葉に批判的な気持ちになりました。(21 節) が、その心を見抜いたイエスの、彼らに対する問い掛け (23 節) について考えましょう。ずばり、どちらが簡単だと思いますか。また、その理由は何ですか。

(24,25 節)

(5) 中風のいやしの奇跡を見た人々や、いやされた人自身の反応から、イエスが自分のことをどのような存在として紹介していることがわかりますか。

(21,24,26 節を参照)

#### まとめ

---

1. 今、あなたは「罪が赦される」とはどのようなことだと考えていますか。そもそも罪とは何なのかを考えつつ、話し合ってみましょう。
2. イエスは、人間の最大の問題である罪について「赦されました」(20 節) と宣言しました。あなたはこのイエスについてどんな印象をもちますか。また、もしこの宣言に同意できるとしたら、あなたのこれからの人生はどのようなものになると思いますか。

## Lesson 3

### Lesson

# 3

## 友であり

## 医者であるイエス

ルカの福音書 5 章 27 節～32 節

### Question

私たちは人間関係において、どのような人なら信頼することができますか。話し合ってみましょう。

イエスは当時のユダヤ人社会で軽蔑されていた「取税人」や「罪人」と呼ばれていた人たちと積極的に付き合っていました。これから読む箇所からその様子が良く分かります。

(1) 27 節から 30 節を読んで考えてみましょう。

- a. レビは、なぜイエスのたった一言で「従う」という大きな決断をしたのだと思いますか。
- b. その後レビはイエスのために大ぶるまいをしました。彼はなぜそのようなことをしたのだと思いますか。

(2) 29 節の様子を見たパリサイ人たちは、どうして 30 節に記されているような反応をしたのでしょうか。



(3) 31 節 32 節に注目してみましょう。

- a. イエスはパリサイ人たちの反応に対してどう答えましたか。
- b. 病人にとって医者とはどのような存在ですか。
- c. 32 節で言う「罪人」とはどういう意味だと思いますか。それはパリサイ人たちが言っている「罪人ども」(30 節) とどのように違うのでしょうか。
- d. イエスはその「罪人」に対し、自分がどのように関わることを主張していますか。

まとめ

---

1. この箇所のイエスの行動や発言から、イエスについてどのようなことがわかりますか。
2. 私たちは、31,32 節でイエスが語っている「罪人」であることを、どのような時に自覚しますか。また、自覚したときにはどのような態度をとったらいよいと思いますか。

## Lesson 4

### Lesson

# 4

## イエスが語った 「幸いな者」とは

ルカの福音書 6 章 20 節～26 節

### Question

「幸福」についてみなさんはどのような考えを持っていますか。何が幸福だと思うか話し合みましょう。

幸福について、イエスは弟子たちにどう言っているのでしょうか。

聖書から以下のことを考えてみましょう。

- (1) 20 節～26 節のイエスの言葉の使い方には、全体的にどのような特徴があると思いますか。
- (2) イエスによれば、幸い、喜びとはどのような状態の時に得られるのでしょうか。
- (3) イエスの主張は、この世の一般的な常識とはかなり違うようです。彼の幸福観について、どのような印象を持ちますか。
- (4) これらの言葉によって、イエスは「幸いな者」とはどのような人たちだと、弟子たちに (20 節：彼らを見つめながら) 伝えたかったのでしょうか。

## まとめ

---

私たちがもし貧乏で、飢え、侮辱されて生きなければならないとしたら、根本的にどのようなことを理解し、経験していくことが問われるでしょうか。これらの言葉を語ったキリストの生涯を考えつつ、話し合ってみましょう。

**Lesson**

5

**弟子たちの**

**驚き**

ルカの福音書 8 章 22 節～25 節

イエスの弟子たちは、イエスとともに過ごす中で、多くの驚きや発見を経験しました。その出来事を通し、私たちも「イエスとはどのような人なのか」がだんだんと分かってきます。今日は、嵐の中で弟子たちが見たイエスの姿を見てきましょう。

- (1) 弟子たちと一緒に舟に乗っていたイエスは、嵐がきた時にもどうしてぐっすりと眠っていたと思われませんか。
- (2) 水をかぶった危険な状態（23 節）の時、弟子たちはイエスに対してどのような思いを持ったと思いますか。
- (3) 24 節のイエスの行動とその結果から、イエスについてどのようなことを感じ、また知ることができますか。
- (4) イエスは 25 節の言葉によって、弟子たちに何を言いたかったのでしょうか。

(5) 25 節の弟子たちの態度と言葉に注目しましょう。

- a. 彼らはここでどうして驚き恐れたのでしょうか。
- b. 彼らはこの出来事によって、イエスに対して新たな疑問を抱きました。この弟子たちの姿についてどう思いますか。

まとめ

---

- 1. 今日の箇所から、イエスがどのような方であるか、何か新たな発見がありましたか。
- 2. 突風 (23 節)、嵐 (24 節) について考えましょう。
  - a. 私たちの生活の中での、突風や嵐とは具体的にはどのようなことだと思いますか。また、私たちがこれらを恐れてしまうのはなぜでしょうか。
  - b. 突風や嵐に襲われた時、どう対処したらよいのでしょうか。この箇所のイエスや弟子たちの態度や言葉から教えられることは何でしょうか。

## Lesson 6

### Lesson

# 6

## 悪霊にとりつかれた 人を解放したイエス

ルカの福音書 8 章 26 節～39 節

### Question

悪霊や悪魔の存在についてみなさんはどのような話を聞いていますか。また、自分なりにどのように整理し、理解していますか。

前回は、自然を支配するイエスの力について見ました。

今回は、「悪霊」に対するイエスの力をともに聖書から学びます。

それでは、嵐を静めた（ルカ 8：24）後にイエスが着いた場所、

ゲラサ人の地方での出来事に注目しましょう。

- (1) 悪霊につかれていた男の生活ぶりはどのようなものだったと思いますか。（27 節、28 節）
- (2) 悪霊の特徴、力についてどのようなことが分かりますか。（27 節～31 節、33 節を参照）
- (3) 悪霊とイエスの力関係について、この箇所からどのようなことがわかりますか。

(28 節～32 節を参照)

(4) a.一連の様子を見聞きしたゲラサ地方の人々や豚飼いの人たちの反応はどのようなものでしたか。

b.彼らが a.のような反応をした理由は何だったのでしょうか。

(5) 38 節の男の反応は、37 節の人々の反応と好対照です。彼がイエスのお供をしたい、としきりに願った理由とは何でしょうか。

#### まとめ

---

1. 39 節の言葉を「家に帰って、神があなたにどんなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」に注目しましょう。悪霊につかれていた人にとって、「大きなこと」とは何だと思えますか。
2. a.今日の箇所を通し、私たちは「悪霊」が人に及ぼす影響について、どのようなことがわかりましたか。  
b.一方、その悪霊に対してイエス・キリストはどのような解決を与えてくれることがわかりましたか。

**Lesson**

7

# 制度よりも 人を大切にしたいイエス

ルカの福音書 14 章 1 節～6 節

集団や社会の秩序を保っていくためには制度が必要です。しかし制度を守る考えが行き過ぎると、人が制度よりも軽んじられてしまいます。イエス・キリストが当時のユダヤ社会における制度“安息日（今の土曜日のこと）には何もしない”に対して、どのような態度を取ったかを見ていきましょう。

- (1) イエス・キリストは、パリサイ派と呼ばれる人たちとどのような関係を持つようになりましたか。
- (2) そのイエスの行動を、パリサイ派の人たちはどのような気持ちで見つめていた（1 節）と思いますか。
- (3) 3 節において、イエスがパリサイ派の人たちに問いたかったことは何だったのでしょうか。
- (4) イエスの問いに対し、彼らは黙っていました。（4,6 節）が、それぞれの場面において彼らの心の中にはどのような思いがあったのでしょうか。



(5) イエスが水腫を患った人をいやした場面（4節）を読んで、どのようなことを感じましたか。

(6) 安息日には何もしてはならない、という当時のユダヤ社会のおきてを破ってまでも、イエスは水腫の病気にかかっていた人を治しました。この行動によって、イエスは何が大切であることをパリサイ人たちに示そうとしたのでしょうか。

## まとめ

---

1. もう一度 2 節を読んでみましょう。私たちの真正面に水腫を患った人（問題を抱えた人）がいたとします。その時、助けようと思う私たちの行動を批判しようとする人たちがいる場合、私たちはどのような葛藤、困難、誘惑を覚えるのでしょうか。
2. 今日の箇所から、人々（水腫を患った人、パリサイ派の人たち）に接する時のイエス・キリストの態度の特徴について、気づいた点を話し合ってみましょう。

## Lesson 8

### Lesson

8

# 祈って下さる イエス

ルカの福音書 22 章 31 節～34 節

イエス・キリストは十字架の直前まで、給仕する人のような謙遜な姿で人々に使えていました。しかし身近に接していた弟子たちですら、この意味をはっきりとは理解していませんでした。(ルカ 22:24-27 を参照)  
本課は、後に彼を裏切ることになる、弟子のシモン（ペテロ）に、イエスが個人的に語った箇所です。

- (1) 31 節でイエスは「シモン、シモン」と名前を二回呼んでいます。自分が誰から二回続けて名前を呼ばれたことを想像してみましょう。ここからシモンに対するイエスのどのような思いが伝わってきますか。
- (2) 31 節に「サタン」という言葉が出てきます。
  - a. 「聞き届けられました」と記されていますが、サタンの願いは誰に聞き届けられたのでしょうか。
  - b. ここから神とサタンの関係についてどのようなことがわかりますか。
- (3) イエスはシモンのために「信仰がなくならないように」祈りました。どうしてイエスは、この時このような祈りをしたのだと思いますか。

(4) シモンのその後の歩みについて、イエスが確信していたことはなんでしたか。

(32,34 節を参照)

(5) 33 節のシモンの言葉に注目してみましょう。彼は後に、この言葉と裏腹の行動をとってしまいます。(22 : 54~62 節を参照)

a. 彼がこのように語っている時の心境はどのようなものであったと思いますか。

b. ここから、私たち人間の特徴や傾向について、どのようなことがわかりますか。

まとめ

---

イエスはシモンがこれからたどる道を知っているにも関わらず、32 節のように語りました。

1. このことから、イエス・キリストのどのような性質がわかりますか。

2. イエス・キリストは、私たちのこれからの人生もすべて承知の上で、同じような言葉をかけてくださいます。私たちもシモンと同様、誓ったことも簡単に破ったりするあてにならない存在です。しかしそんな私たちにも、イエスは 32 節のように語りかけてくださいます。この言葉は、私たちにとってどのような希望をもたらしてくれるのでしょうか。

## Who is Jesus ?

これまで、8 回に渡って

「イエス・キリストとはどういう人なのか」

を見てきました。彼は人間の根本的な問題である罪を解決し、  
人間では決して手の施せない自然や悪の力をも支配できる人でした。

また人間の本当の幸せとは何かを説きながら、

人間の存在そのものを大切にして、

祈ってくださる人でした。

このイエス・キリストは、

今日、

ここ日本で生活している私たちをも同じように見て、

取り扱ってくださるのです。

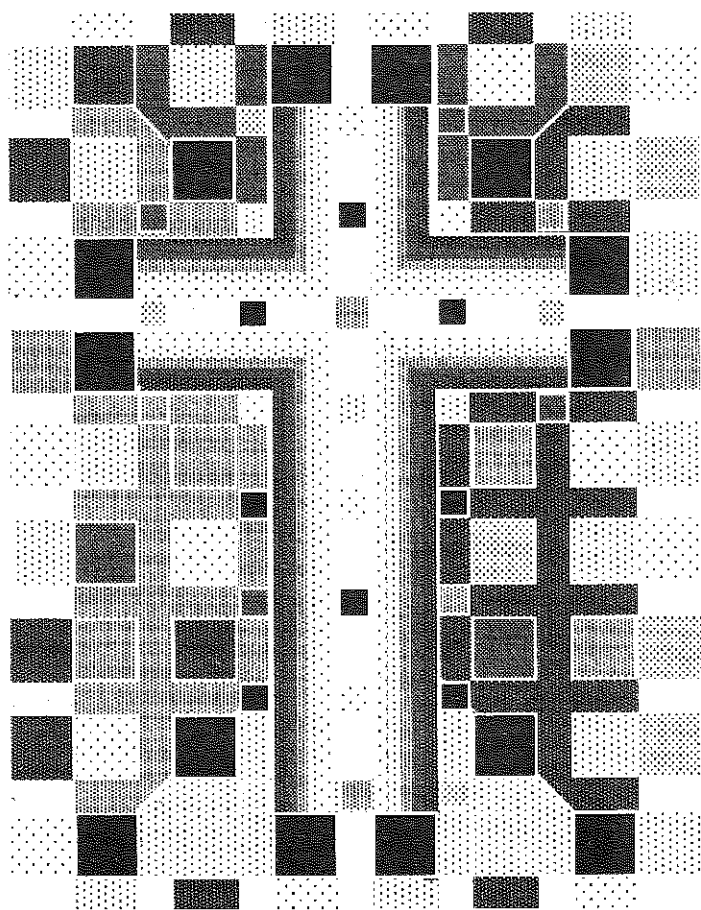
このようなイエス・キリストを、

信じて生活してみませんか。

# THE WITNESS OF JESUS 2

ルカの福音書からの手引き

キリスト者の生き方



## Lesson 1

### Lesson

1

## 安息日の

## 過ごし方

ルカの福音書 6 章 1 節～11 節

ユダヤ人の宗教的指導者であるパリサイ人にとって、力ある言葉と行いで注目を集め始めていたイエスは、けむたい存在になっていました。彼らはイエスを訴えようと、機会を狙っていました。特に、ユダヤ人が大切にしてきた「律法」に、イエスが違反していることを指摘しようと躍起になっていました。「安息日」とは、神に定められた、休息と礼拝の日です。

(1) 2 節を見てください。

- a. パリサイ人たちの、弟子たちへの非難のポイントは何ですか。
- b. 彼らの安息日に対する理解とは、一体どのようなものだったのでしょうか。

(2) 3,4 節を読みましょう。

- a. イエスはパリサイ人たちの疑問に対してどのように答えましたか。
- b. ここでイエスが、ダビデの出来事を例としてあげたのはどうしてでしょうか。

(第一サムエル 21 : 1～6 を参照)

- (3) パリサイ人たちがじっと見ていたのは、イエスを「訴える口実を見つけるため」(7節)と書かれていますが、彼らは具体的に何をしようとしているのでしょうか。
- (4) 5,9節を見てください。
- a. パリサイ人たちは「してはならない」(2節)、「してよい」(9節)といった行為にこだわっていました。一方、イエスは安息日をどのように理解していたのでしょうか。
  - b. イエスと安息日との関係について、どのようなことがわかりますか。
- (5) 右手のなえた人(10節)について見ていきましょう。論争の中で、彼はイエスの言葉どおりに実行しましたが、実行するまでにどのような葛藤があったと考えられますか。

## まとめ

---

現在は、イエス・キリストの復活を記念して、日曜日がクリスチャンの礼拝の日とされ「主の日」と呼ばれています。私たちの主の日の過ごし方について、この箇所からどのようなことが学べますか。

## Lesson 2

### Lesson

# 2

## イエスを受け入れた 人の歩み

ルカの福音書 9 章 46 節～50 節

グループ活動において、メンバーを理解するためには互いに話し合うことが大切です。しかし、議論が白熱すると、言葉で他の人を圧倒したり傷つけたりして、グループのまとまりを乱すことがしばしば起きます。本課では、議論していた弟子たちに対して、イエスがどのようなことを語られたかを見てみましょう。

- (1) 弟子たちの間で、「誰が一番偉いか」という議論が起きたのはなぜだと思いますか。(ルカ 9 : 28～36 を参照)
- (2) グループのメンバー同士で「誰が一番偉いか」というような発想が出てきたとき、どのような問題が起きやすくなるでしょうか。
- (3) 47 節で、イエスはひとりの子供の手を取り、自分のそばに立たせて、48 節のような言葉を語りました。このことは、この時の弟子たちにとってどのような意味があったのでしょうか。



(4) a. 「一番小さい者が一番偉い」という言葉から、イエスの目から見た「偉さ」とは、どういう意味の偉さであると思いますか。

b.それは、世の中の「偉さ」の一般的な基準とどういう点で違いがあると思いますか。

(5) ヨハネが考えていた仲間意識（49 節）とイエスの仲間に関する意識には、どのような違いがあったのでしょうか。

#### まとめ

---

どのようなグループの中にも、様々なタイプの人があります。またグループの運営上、役職のある人とない人、責任の重い人と軽い人、などの違いが出てきます。今日の箇所から、イエス・キリストは…

1. 私たちがイエス・キリストに対してどのような態度をとることを望んでいると思いますか。
2. 私たちが所属するグループにおいて、他の人をどのようにみることを願っているのでしょうか。

## Lesson 3

### Lesson

3

# 隣人に なること

ルカの福音書 10 章 25 節～37 節

### Question

キリスト教はしばしば隣人愛の宗教とされています。高校の教科書にも「キリスト教にはその教えの一つに〈あなたの隣人を愛せよ〉というのがある」という内容が記されています。みなさんは「隣人愛」についてどのようなイメージを抱いていますか。

この課では、「隣人を愛すること」について質問してきた律法の専門家に、イエスがどのように答えたかを見ていきましょう。

まず律法の専門家の、ものの見方に注目しましょう。(25 節～28 節)

- (1) この人は「永遠のいのち」を得る道をどのように考えていたようですか。
- (2) a.この人は「律法」についてどのような理解をもっていましたか。  
b.その理解についてイエスはどのような反応をしましたか。

イエスが律法の専門家に語ったたとえ話に注目してみましょう。(30節～35節)

- (3) 強盗に襲われた「ある人」に対するサマリヤ人の接し方には、どのような特徴がありますか。具体的にあげてみましょう。
- (4) 以下はこのたとえ話に登場してくる人たちです。イエスは、これらがそれぞれどのような人を指すものとして、律法の専門家に語ったのでしょうか。
- a. 祭司・レビ人
  - b. 強盗に襲われた「ある人」
  - c. サマリヤ人
- (5) 律法の専門家の隣人の認識(29節)とイエスの隣人の認識(36節)の違いは何であると思いますか。隣人に対する両者の言葉を参考にして考えてみてください。

まとめ

---

- 1.この話から、私たちはしばしば「サマリヤ人のように立派な人にならなければ」といった結論を持ちます。しかし、イエスが律法の専門家に語った要求(37節)を実行するには、まず私たち自身がどういうことに気づく必要があると思いますか。
- 2.私たちの住む日本社会は「閉鎖社会」と言われています。種々の差別、いじめ、留学生・在留外国人に対する無関心などが横行しています。このような風潮の中で、イエスの隣人についての教えは、私たちにどのような光を与えてくれていると思いますか。経験談、失敗談を交えて分かち合ひましょう。

## Lesson 4

### Lesson

4

# 何を大切にして 生きるか

ルカの福音書 10 章 38 節～42 節

### Question

優先順位。これは私たちの日々の忙しい生活、進路選択などにおいてとても重要なテーマです。初めに「優先順位」に関して自分なりに工夫していること、課題に感じていることを出し合ってみましょう。

この課ではイエスが何を最も大切にすることを望んでいるかを学びましょう。

旅を続けていたイエスの一行は、ある時ベタニヤという村に入りました。その村でイエスを迎えた二人の女性（マリヤとマルタ）に注目しましょう。

- (1) マルタはどのような思いでイエスを迎えましたか。
- (2) しかし途中からマルタは「気が落ち着かず」(40 節) という状態に陥りました。
  - a. マルタの心は、最初の状態 (38 節) からどうして変化してしまったのだと思いますか。

- b. マルタはその時、イライラをイエスにぶつけました。直接妹のマリヤに言わなかったのはなぜでしょうか。
  - c. 私たちは、どのような時に気が落ち着かなくなりますか。また、気が落ち着かない時、どのような態度をとってしまいやすいですか。
- (3) マルタの言葉を聞いたイエスの反応（41,42 節）に注目しましょう。
- a. 「マルタ、マルタ」と名を呼ぶイエスの姿には、マルタに対するイエスのどのような思いが表されていますか。
  - b. マルタのしたことをイエスはどのように評価していますか。
  - c. 「どうしても必要なこと」、「最も気を使うこと」はマルタにとっては何であったのでしょうか。

## まとめ

---

どうしても必要なことは、マリヤのように「みことばに聞き入る」ことであると、イエスはマリヤに語りました。これは今日の私たちにも語られています。私たちが忙しい日常生活の中で「みことばに聞き入る」ために、現在どのような葛藤があるか、また具体的にどのような工夫をしているかを話し合しましょう。

**Lesson**

5

# 金持ちの 勘違い

ルカの福音書 12 章 13 節～21 節

お金は私たちの生活を快適にする必需品です。しかし一歩間違えると、お金のとりこになって足元をすくわれてしまいます。現代の 16 歳～25 歳の若者が一番欲しいものは「お金」だといわれています。今回は「お金」についてどう考えるべきかを、一人の金持ちの生き方を通して考えましょう。

- (1) 群衆の一人がイエスに「私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください。」(13 節) と願っているのは、なぜだと思いますか。

イエスは彼に 14 節のように語った後で、人々に対して「どんな食欲にも注意してよく警戒しなさい」(15 節) と言いました。そしてもっとわかりやすく説明するために、16 節～21 節のたとえを話しました。

- (2) 金持ちの言葉 (17 節～18 節) から判断すると、彼はどのような意味で積極的な生き方をしていたと思いますか。

- (3) しかしこのたとえの中で神はこの人に対して「愚か者」と言っています。彼は自分の人生についてどのような点で勘違いをしていたのでしょうか。
- (4) 「神の前に富まない」(21 節) とは、いったいどういうことなのでしょうか。この話から教えられたことを土台として考えてみましょう。

#### まとめ

---

1. この話からイエスは人々（私たち）に、お金に対して、また自分が現在持っている物に対して、どのような理解をもつように勧めていることがわかりますか。
2. もう一度、イエスが語られた「どんな貪欲にも注意して、よく警戒していなさい」(15 節) ということばに注目しましょう。私たちの周囲には、現在どんな「貪欲」が潜んでいるかを考え、話し合みましょう。

**Lesson**

6

おこった

兄息子

ルカの福音書 15 章 25 節～32 節

ルカの福音書 15 章 11 節～24 節には、聖書の中のたとえ話の中でも有名な「放蕩息子」の話があります。この息子は父に逆らって家を飛び出し、父から受けた財産を湯水のように使い果たしてしまいます。しかし自分が惨めな状態になった後に我に返り、赦しを求めて父の元に戻った時、父はその息子をそのままの姿で迎え入れてくれたという感動的な話です。本課では、この出来事について兄息子がどう反応したかについて見ていきましょう。

- (1) 兄息子の心境を考えながら話し合ってみましょう。28 節に「兄はおこって、家に入ろうともしなかった」と記されています。彼はどうしてこんな反応をしたのだと思いますか。(25,29,30 節を参照)
- (2) 次に父親の様子に目を向けましょう。「いろいろなだめてみた」(28 節)とありますが、父親は兄息子に対して具体的にはどのような言葉をかけ、またどのような態度をとったと思いますか。



(3) 31,32 節の言葉に注目しましょう。

- a. 20,22-24,28 節に示されているような父親が「いつもいっしょにいる」という事実を、兄息子は、この時点ではどのように理解していたのでしょうか。
- b. この父親は何を喜びと感じる人だと思いますか。
- c. 父親の当然 (32 節) と兄息子の当然にはどのような隔たりがあると思いますか。

#### まとめ

---

1. 神 (たとえ話の父) が喜ぶことと、私たち人間 (たとえ話の兄息子) が喜ぶこととの間には、時にどのようなすれ違いが起こりますか。本課の父親と兄息子の、弟息子に対する違いを例にして考えてみましょう。
2. 私たちが、兄息子のように、父親とともにいる喜びに気がつかずにふてくされた態度をとってしまうのは、どのようなときでしょうか。

## Lesson 7

### Lesson

7

# どんな祈りを ささげるか

ルカの福音書 18 章 9 節～14 節

「祈り」は私たち人間が、私たちの造り主である神と会話をするための大切な手段です。この課では、非常に対照的に描かれている二人の祈りを中心にして「祈り」について考えてみます。

この箇所のイエスのたとえ話は、自分を義人とみなし、他の人を見下している人たちに対して語ったものでした。

- (1) 自分を義人だと自任することと、他の人々を見下すこととの間には、どのような関連があると思いますか。
- (2) 10 節～13 節を読んで、以下のことを考えてください。
  - a. パリサイ人と取税人の共通点は何でしたか。
  - b. 祈り方や祈りの内容についての二人の相違点は何でしたか。
  - c. パリサイ人と取税人は、それぞれ神の前における「自分自身の現実」についてどのように考えていたことがわかりますか。

- (3) 「義と認められた」(14節)とは、どういうことなのでしょうか。
- (4) 14節に記されてるような「自分を高くし、他の人々を見下す生き方」は、自分自身に、また他の人々にどのような影響を及ぼすと思いますか。

#### まとめ

---

この箇所から「祈り」「祈りの意味」について改めて教えられたことを話し合ひましょう。また、自分たち個人や教会、学校内で祈りの現実はどうなっているかを吟味し、話し合ひましょう。

**Lesson**

8

与えられたものを  
どのように生かすか

ルカの福音書 19 章 11 節～27 節

イエスがイスラエルの中心地であるエルサレムに近づいた時、人々は彼がイスラエルの支配者としていよいよ立ち上がるのではないか、という期待をもちました。そのときにイエスが語ったたとえ話は、10 ミナを 1 ミナずつ 10 人に渡した主人の話でした。

\* ミナとは…当時の 100 日分の稼ぎに相当する額。従って現在では、約 100 万円と  
考えてよいでしょう。

- (1) 最初の者と 2 番目の者は 1 ミナをどのように扱っていますか。
- (2) それに対して主人は、結果（10 ミナ、5 ミナに増やしたこと）よりはるかにまさる、新たな任務（10 の町、5 の町を治めるということ）を与えました。どうして主人は、これほどまでの大きな任務を彼らに与えたのだと思いますか。
- (3) 3 番目の人は、渡された 1 ミナをしまっておいたままでした。彼は主人を恐れて「きびしい方」（21 節）と決めつけ、不信感をもっていました。ある人に対して不信感をもつと、私たちはどのような行動や態度をとるようになるでしょうか。

(4) 3番目の人に対する主人の態度に注目しましょう。

- a. ミナを与えてくれた主人を信頼せず、恐ろしいと決めつけた結果はどのようなものでしたか。
- b. この結果から、私たちはどのような教訓を得ますか。

まとめ

---

このたとえ話の「しもべたち」とは、今日の私たちのことを、また「主人」とはイエスキリストご自身のことです。

1. イエスはこのたとえによって、イエスと私たちはどのような関係にあることを示しているのでしょうか。
2. 私たちは今自分が持っているもの、与えられているものをどのように生かすように求められているのでしょうか。

# キリスト者の生き方

これまで8回に渡って、「キリスト者の生き方」について学んできました。

キリスト者としてこの世で生活していくためには、

確かに多くの困難が伴います。

しかし私たちの主は、

常に聖書の言葉によって私たちを励ましてくださいます。

このシリーズでは、

- (1) いつも共におられる神に気づき、神の言葉を聞く大切さ (4 課、6 課)
- (2) 主の日の過ごし方や祈りなどの信仰生活の土台 (1 課、7 課)
- (3) 他の人たちと関わるために信仰をどのように働かせていくか (2 課、3 課)
- (4) 自分に与えられたものをどのように用いていくか (5 課、8 課)

をそれぞれ見てきました。

設問の答え以外からも様々な発言が飛び出して、

みなさんがそれぞれ多くの発見をされたことと思います。

みなさんがこれからも、今回のようなグループ聖書研究を続けて、

神の言葉を通して「燃える経験」を積み、

キリスト者としてこの世の戦いに備えていただきたいと思います。

「道々お話になっている間も、聖書を説明して下さった間も、

私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

ルカの福音書 24 章 32 節

## **The Witness of Jesus 2**

ルカの福音書からの手引き 伝道聖研ブックレット

発行日 1996年3月7日 初版

2002年1月20日 第二版

発行 キリスト者学生会主事会

101-62 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル3階

電話 03-3294-6916 ファックス 03-3294-6050

e-mail [kgkjapan@246.ne.jp](mailto:kgkjapan@246.ne.jp) [www.246.ne.jp/~kgkjapan/](http://www.246.ne.jp/~kgkjapan/)

定価 100 円

THE WITNESS OF JESUS 2

～ルカの福音書からの手引き～